

第1回塩竈市総合教育会議 概要報告

1. 日 時 平成30年4月27日(金)
開会 13時30分 閉会 15時00分

2. 会 場

3. 出席者 塩竈市長 佐藤 昭
塩竈市教育委員会
教育長 高橋 睦麿
教育長職務代理者 柴田 仁市郎
委員 太田 忍
委員 池野 暢子
委員 佐浦 弘一

学びの支援センター「コラソン」 所長 青木 真澄

(事務局)

市民総務部政策課長	相澤 和広
教育部長	阿部 光浩
教育部教育総務課長	本田 幹枝
教育部学校教育課長	遠山 勝治
教育部生涯学習課長	伊藤 英史
教育部市民交流センター館長	伊東 英二
教育部教育総務課総務係長	扇谷 剛四
教育部教育総務課総務係主査	工藤 貴裕

4. 協議事項
- 議題1 平成30年度予算における教育分野の主な取組について
- ① 塩竈市独自の小中一貫教育の推進について
 - ② 勝画楼保存活用推進事業について
 - ③ 塩竈アフタースクール事業（わくわく遊び隊）について
- 議題2 塩竈市学びの支援センターコラソン及び小中学校サポートルームの活動状況について

5. 概要

- 開会
- 佐藤市長あいさつ
- 出席者紹介
- 協議事項

議題1 平成30年度予算における教育分野の主な取組について

- ① 塩竈市独自の小中一貫教育の推進について

（発表者：教育部学校教育課長 遠山 勝治）

塩竈市独自の小中一貫教育の取組状況について、アンケートの調査結果を含め報告し、意見交換をおこなった。

【主な意見】

〈池野委員〉 学びの共同体による授業づくりについて、以前から検証をしているが、個々の先生方が取り組むにあたって自信をもって臨めている状況か。

〈遠山学校教育課長〉 昨年度から準備を進めており、各校から2名の推進委員を選出し、学びの共同体による授業方法について県外視察等を実施してきた。また学校では、2名の推進委員の先生を中心に校内研究を1年間かけておこなってきた状況である。しかしながら、十分かと言えば、まだ十分とは言えないので、今月も全体研修会を実施するが、今後とも先生方が自信を持って取り組んでいけるように進めていきたいと考えている。

〈柴田委員〉 学校生活満足度調査について、全国値を上回ったとのことだが、前回の数値はどうだったのか。また、学びの共同体による授業づくりについて、教室の配置を従来の配置から、コの字型の教室配置にしたことや男女混合4人グループにしたことで、子供達にどのような変化があったのか。

〈遠山学校教育課長〉 学校満足度調査については、昨年度、6月、10月、2月と3回実施した。学校満足度は、傾向として6月は高く、3月に進むに連れて下がっていく傾向にあるが、今回塩竈市で実施した学校満足度調査では、その下がり無く、3月まで学校満足度が高いまま継続できた。学びの共同体による授業づくりについては、子供達が本来持っている学び合いの力を活用し、子供達同士でコミュニケーションを取りながら教え合うことを目的としており、授業内容が伝わらない子供達を減らすため導入したものであり、非常に効果的なものと捉えている。

〈太田委員〉 実際に授業参観に行ってみたが、今までの授業方法と全く違うものとなっていると感じた。コの字型の教室配置にしたことで、子供が子供に教える場面が多く見られた。今までの授業方法だと、一人一人が黒板に向かっていたので、授業が分からない子がいたとし

でも気付かないが、学びの共同体による授業では、授業が分からない子がいたとしても隣に座っている子が気付いてあげることができる。この違いが非常に大きいものだと感じたとし、素晴らしいものだと感じた。

〈佐浦委員〉 塩竈市独自の小中一貫教育については、まだ始まったばかりの取組であるので、今後検証していく必要があると思う。今までの授業方法とはまた違った子供達に対する配慮が必要になるのではないか。例えば、グループの組み方によっては上手くいく場合といかない場合があるのでないか。

〈佐藤市長〉 教育長としての意見をお願いします。

〈高橋教育長〉 一番大切なのは、一時間一時間の授業の中で、子供達が学んでいるかという部分に目を向けるということが、この学びの共同体の考え方である。どうしても教員は、限られた時間の中で決まった内容を教えなければならないということで、8割方の子供達が分かっていたら次に進んでしまう。そうしたところをなんとかしようということで、子供達同士の間も借りながら、授業の中で分からない子が出ないようにしていきたい。

〈佐藤市長〉 今、佐浦委員からご意見をいただいたグループの組合せについては、どのような配慮で取り組んでいるのか。

〈遠山学校教育課長〉 グループの組合せについては、誰と誰が組んでも大丈夫なことが理想ではあるが、学級の現状を見るに配慮を要する子がいるのも現実としてあるため、学級の現状に合わせた配慮をおこなっている。

〈佐藤市長〉 塩竈市独自の小中一貫教育については、まだ一年目であり、評価を下すのはなかなか難しい。二年、三年と続ける中で確かな成果が出るように頑張っていたきたい。

② 勝画楼保存活用推進事業等について

(発表者：教育部生涯学習課長 伊藤 英史)

事業の概要を説明した後、意見交換をおこなった。

【主な意見】

〈佐藤市長〉 勝画楼については、当初、塩竈神社の所有物であり所有者が解体したいという発表があったことから、我々も所有者の意向を踏まえて、再築を考えていたところであったが、その後、多くの市民の皆様から出来ればそのままの形で残したいとの声があがってきた。そうした声を受けて、市から塩竈神社へ建物を寄贈いただけないかとの話をしたところ、譲渡という話をいただき、今は建物については市の所有物である。しかしながら、土地は塩竈神社の所有であるので、事業をおこなうにあたりどれだけの土地をお貸しいただけるかという問題がある点や、歴史的価値がどのようにあるのかという点、市民の皆様へ勝画楼の保存によって何を提供できるかという点等、様々な点において意見を頂戴できればと思っている。

〈佐浦委員〉 塩竈神社では、一番心配していたのは大分弱ってきている建物であるので、天候によって破損したときに、大きな事故に繋がるのではないかという点であった。今後、修繕するとしても始まるまでは時間がかかると思うので、周囲に対する安全対策を万全にしていきたい。

〈佐藤市長〉 修繕については、修繕したことでかえって歴史的価値を損なうことが無いように

十分に考慮しながら進めていきたい。

〈柴田委員〉 勝画楼を修繕し保存していくということは、いずれは市の観光資源としてお考えになっていることかと思う。そうした場合、今後どのように運営していこうと考えられているのか。

〈佐藤市長〉 我々が一番気にしているのが、文化財としての価値である。市の文化財として認めていただいた後に県の文化財、国の文化財として認めていただけるよう段階を踏んで取組んでまいりたい。国の文化財指定となった場合は、観光という部分というより歴史的価値という部分が重要になると思う。その維持管理にあたるうえで、費用も相当かかることが予想されるため、一部有料にすることなども想定しているが、現段階では未定である。今後の調査の結果を踏まえて教育委員会にも相談していきたいと考えている。

③ 塩竈アフタースクール事業（わくわく遊び隊）について

（発表者：教育部生涯学習課長 伊藤 英史）

事業の概要を説明した後、意見交換をおこなった。

〈池野委員〉 参加希望者が全員入れるようになっているのか。

〈伊藤生涯学習課長〉 現在は指導者として各校に3人から4人配置されている。子供達の安全面を考えれば、子供達は30人から40人前後が適切な数ではないかと考えている。また、指導者のなり手を発掘することが、今後の課題であると考えている。

〈佐藤市長〉 わくわく遊び隊の対象者は小学校3年生までとなっている。今の状況であれば、安全安心に活動をおこなっていけると考えている。

〈柴田委員〉 わくわく遊び隊はとても良い取組みだと思うが、参加人数の傾向はどのようになっているか。また、参加していない子供達はどのような要因で参加していないのか。

〈伊藤生涯学習課長〉 参加人数については、1年生から3年生までの児童数の約4分の1が、わくわく遊び隊に参加している。参加していない要因については、アンケートを取ったわけではないので捉えていないが、塾だったり、習い事だったりの時間と重なるなどの要因があるのではないかと考えている。参加人数の傾向としては、始まったばかりの事業であるため、傾向として捉えるためには、もう少し時間を要すると考えている。

〈佐浦委員〉 事故が起こった場合の対応はどうか。

〈伊藤生涯学習課長〉 今まで重大な事故は無いが、参加費をいただき、その中で保険をかけているので、安心していただけると考えている。なお、事故等が起こらないように今後とも安全安心に配慮していきたい。

議題2 塩竈市学びの支援センターコラソン及び小中学校サポートルームの活動状況について

（発表者：学びの支援センター「コラソン」 所長 青木 真澄）

活動状況について報告の後、意見交換をおこなった。

【主な意見】

〈佐藤市長〉 不登校の児童生徒数が減少してきたのは、このコラソンでの活動のお陰であると考えている。是非、今後とも活動を続けていただきたい。

〈柴田委員〉 子供達の制作物を展示販売しているということで、子供達にとっても自分の制作物を買ってもらおうと自分を認めてもらったという気持ちになると思う。非常に良い取り組みだと感じた。

〈佐藤市長〉 太田委員にも制作物の販売にご協力いただきありがとうございます。

〈太田委員〉 私たち市民もこのような施設があることが分からない方がたくさんいるので、こうした制作物の販売を通して、コラソンの活動を知っていただけるので良いのではないか。

○閉会